

| | | | |
|---|---|---------|---------|
| 授 業 科 目 名 | 社会の理解 | | |
| 担 当 者 名 | 竹並 正宏 | | |
| 科 目 コ ー ド | 2500001 | 授 業 形 態 | 講義 |
| 学 年 | 1 | 開 講 期 | 前期 |
| 単 位 数 | 1 | 履 修 方 法 | 介護福祉士必修 |
| 授業の概要と方法 | 介護を必要とする者に対して介護福祉士としての職務を遂行するに際して、介護サービス利用主体の生活や社会背景を理解しサービスを提供するのに必要な行政施策の仕組みやサービス利用にかかわる主な法制度体系について習得し社会保障、介護保険制度と障害者総合支援法について基本的知識を学び、介護福祉教育の基盤に関しての重要性を深めていく。 | | |
| 授業の到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護を必要とする者に対する全人的な理解や尊敬の保持、介護実践の基礎となる教養、総合的な判断力及び豊かな人間性が身に付いている。 2. 保育士養成課程で学んだ内容を踏まえて、わが国の社会保障、介護保険制度と障害者自立支援制度について基本的知識が身に付いている。 | | |
| 授 業 計 画 | | | |
| 1. | 生活と福祉・・・家族、地域、社会・組織 | | |
| 2. | 生活と福祉・・・少子高齢化社会と福祉 | | |
| 3. | 社会保障制度・・・社会保障制度の基本的考え方 | | |
| 4. | 社会保障制度・・・社会保障制度の発達、しくみの基本的理解 | | |
| 5. | 社会保障制度・・・現代社会における社会保障制度 | | |
| 6. | 介護保険制度・・・介護保険制度創設の背景及び目的 | | |
| 7. | 介護保険制度・・・介護保険制度の動向、介護保険制度のしくみの基礎的理解 | | |
| 8. | 介護保険制度・・・介護保険制度における組織・団体の役割、専門職の役割 | | |
| 9. | 障害者総合支援法・・・創設の背景及び目的 | | |
| 10. | 障害者総合支援法・・・しくみの基礎的理解 | | |
| 11. | 障害者総合支援法・・・組織、団体の機能と役割 | | |
| 12. | 介護実践に関連する諸制度・・・個人の権利を守る制度の概要 | | |
| 13. | 介護実践に関連する諸制度・・・保健・医療・福祉に関する施策の概要① | | |
| 14. | 介護実践に関連する諸制度・・・保健・医療・福祉に関する施策の概要② | | |
| 15. | まとめ | | |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | | | |
| 定期試験 | 授業への取り組み姿勢 | レポート | |
| 50% | 30% | 20% | |
| 授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等) | | | |
| ・利用者本位のサービスを提供するために必要な基礎的知識を身に付けるため、一般常識だけでなく日本の少子高齢化などの諸問題に関心を持ち予習を行う。 | | | |
| 使 用 テ キ ス ト | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | |
| 新・介護福祉士養成講座 社会と制度の理解 | | 中央法規出版 | |
| 参考書又は参考資料等 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・小テストを行い、整理していく。 ・視聴覚を使いながら、より具体的にわかりやすく進めていく。 | | | |
| そ の 他 (受講生への要望等) | | | |
| ・社会の理解は保育士養成課程で学んだ内容を踏まえて、わが国の社会保障、介護保険制度と障害者総合支援法について、基本的知識が身に付くことを認識して授業に臨んでほしい。 | | | |
| 担当教員の連絡先等 | | | |
| 担当教員 E-mail | その他 | | |
| takenami@knwu.ac.jp | | | |

| | | | |
|-----------|--|---------|---------------------------------------|
| 授 業 科 目 名 | 介護の基本 I | | |
| 担 当 者 名 | 田中 文佳 | | |
| 科 目 コ ー ド | 2500002 | 授 業 形 態 | 演習 |
| 学 年 | 1 | 開 講 期 | 前期 |
| 単 位 数 | 3 | 履 修 方 法 | 介護福祉士必修 |
| 授業の概要と方法 | 介護福祉の業務は、個人の尊厳の保持と自立支援を土台としながら、介護を必要とされる一人ひとりの様々な生活背景や価値観を考慮しつつ最適な生活支援サービスを提供する。そのために必要な基本的考え方や姿勢、専門的役割について学ぶ。教科書を中心とした講義のほかビデオ学習やグループワーク演習、フィールドワーク等を通して、介護福祉の発展について考察していく力を習得する。 | | |
| 授業の到達目標 | 1. 「介護とは何か」について歴史的な経緯から学び、個人の尊重と自立の支援に基づく、生活支援としての介護の役割や専門性について理解する。 2. 社会生活に関する構造的、多面的視点を養い、個別の生活ニーズについて理論的に洞察できる。 | | |
| 授 業 計 画 | | | |
| 1. | 介護とは…介護の成り立ち 介護福祉士を取り巻く状況・歴史 | 24. | 「その人らしさ」の背景 |
| 2. | 介護の概念・定義 | 25. | 「その人らしさ」を支える介護…生活ニーズの把握 …個別支援の視点 |
| 3. | 「介護」の見方・考え方の変化 | 26. | 高齢者が生きてきた時代や文化の理解 …個々の生活ニーズと公的サービス |
| 4. | 介護問題の背景 | 27. | 生活障害の理解 …生活障害の視点・生活障害の視点からとらえた認知症 |
| 5. | 「自立に向けた介護」のための介護職の役割 | 28. | 生活環境の重要性…利用者に合った生活の場・生活の 利便性を向上 |
| 6. | 「生活支援」としての介護とは | 29. | 心の健康を奪う生活環境・人的な生活環境の重要性 |
| 7. | 介護の専門性 社会福祉法及び介護福祉法 | 30. | まとめ② |
| 8. | 利用者に合わせた生活支援 尊厳を支える介護 | 31. | 生活支援とその意義…介護が行う生活支援 |
| 9. | 「自立」と「自律」に向けた支援 | 32. | 身体介護とその意義 |
| 10. | 介護サービスの在り方 | 33. | 家事支援とその意義 |
| 11. | 自らの「介護観」を育むことの重要性 | 34. | 生活支援ニーズを見出す相談援助とその意義 |
| 12. | 介護の仕事の本質的価値…求められる介護福祉士像 | 35. | 利用者・家族に対する精神的支援とその意義 |
| 13. | 介護福祉士の倫理・日本介護福祉士倫理綱領・ 介護に於ける倫理観 | 36. | 社会・文化的援助とその意義 |
| 14. | 他者への共感的かわり・個別ケアの考え方 | 37. | よりよい介護を目指すために |
| 15. | まとめ① | 38. | 尊厳を支える介護 |
| 16. | 介護を必要とする人の理解…私たちの生活の理解 …生活とは何か | 39. | QOL の考え方 |
| 17. | 生活にとって大切な要素 | 40. | ノーマライゼーションの実現 その考え方 |
| 18. | 生活の特性 私たちの生活活動についての理解 | 41. | ICF の考え方 |
| 19. | 高齢者や障害を持った人たちとの暮らしと介護 | 42. | ICF の視点に基づくアセスメント |
| 20. | 高齢者の暮らしを支える介護 | 43. | 介護とリハビリテーション 介護に於けるリハビリテーションの考え方 |
| 21. | 障害を持った人の暮らしを支える介護 | 44. | リハビリテーション専門職との連携 |
| 22. | QOL の視点の重視…考え方…実践する為の課題 …心の交流の体験 | 45. | まとめ③ |
| 23. | 「その人らしさ」「生活のニーズ」の理解 | — | |

| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | | |
|--|-----|-----------|
| 定期試験 | 提出物 | 授業への取組み姿勢 |
| 70% | 20% | 10% |
| 授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等) | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・次回授業の内容を提示しますので教科書を読み予習をしてください。 ・国家試験に向けて、講義の復習を心掛け、また、過去問題等問題集に取り組みましょう。 ・介護福祉に関するニュースや文献を意識し、多くの情報を取得するようにしてください。 | | |
| 使用テキスト | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 |
| 新・介護福祉士養成講座 3 介護の基本 I | | 中央法規出版 |
| クエスチョンバンク 介護福祉士国家試験問題解説 2018 | | メディックメディア |
| 参考書又は参考資料等 | | |
| ○「新・介護福祉士養成講座 16 資料編 介護福祉士国家試験模擬問題集」(中央法規出版) | | |
| その他の (受講生への要望等) | | |
| ・ボランティア活動に参加し、社会活動や対人援助の意義を会得することを望みます。 | | |
| 担当教員の連絡先等 | | |
| 担当教員 E-mail | その他 | |
| t.fumi@hcc.ac.jp | | |

| | | | |
|-----------|---|---------|---------------------------------------|
| 授 業 科 目 名 | 介護の基本 II | | |
| 担 当 者 名 | 田中 文佳 | | |
| 科 目 コ ー ド | 2500003 | 授 業 形 態 | 演習 |
| 学 年 | 1 | 開 講 期 | 後期 |
| 単 位 数 | 3 | 履 修 方 法 | 介護福祉士必修 |
| 授業の概要と方法 | 介護を必要とされる方々の生活ニーズを充足するためのケアマネジメントの概略を学習する。また、保健・医療・福祉の他職種連携の重要性とそのチームアプローチに必要なコミュニケーション方法について学ぶ。利用者の安全の確保のためのリスクマネジメントの具体的方法や介護職自身の健康管理についても理解を深める。 | | |
| 授業の到達目標 | 1. 介護職と他職種の連携のあり方を学びケアマネジメントにおけるチームアプローチの重要性を理解できる。 2. 介護の質の向上とリスクマネジメントの関係性について理解し、また、介護職の健康管理労働環境の改善について留意できる。 | | |
| 授 業 計 画 | | | |
| 1. | 介護福祉士を取り巻く状況 介護問題の背景と介護福祉士制度 | 24. | 介護実践における連携 地域連携 役割 機能 |
| 2. | 求められる介護福祉士像 心身の状況に応じた介護を考える | 25. | 地域包括支援センターの役割 連携 |
| 3. | 社会福祉法及び介護福祉法 | 26. | 介護実践における市町村 都道府県の機能と役割 |
| 4. | 社会福祉法及び介護福祉法に関連する諸規定 | 27. | 介護における安全の確保 |
| 5. | 介護に於ける専門職能団体の活動とその役割 | 28. | 安全確保のためのリスクマネジメント |
| 6. | 介護実践における倫理 日本介護福祉士会倫理綱領 | 29. | 事故 トラブルを繰り返さないための検討 |
| 7. | 介護サービスの特性 介護サービスの意味と特性 | 30. | まとめ② |
| 8. | ケアマネジメントの意味としくみ | 31. | 事故防止：安全対策 |
| 9. | 介護サービスの歴史的返還と時代背景 | 32. | 事故防止：安全対策のためのリスクマネジメントの仕組み |
| 10. | 介護サービスの種類と提供の場 | 33. | 事故防止：安全対策の基礎と実際 |
| 11. | ケアマネジメントとその課題 | 34. | 演習：自分でトイレに行こうとして転倒 |
| 12. | 要介護者が利用している介護保険サービスの種類とその満足度 | 35. | 感染症管理の方策 |
| 13. | 各種障害者が利用している障害者自立支援サービスの種類とその満足度 | 36. | 生活の場での感染対策 |
| 14. | 介護サービス提供の場の特性 介護福祉士の働く場 | 37. | 高齢者介護施設と感染症対策 |
| 15. | まとめ① | 38. | 感染対策とリスクマネジメント |
| 16. | 居宅系サービス提供の場とその特性（高齢者） | 39. | 感染対策の基礎知識 |
| 17. | 居宅系サービス提供の場とその特性（障害者） | 40. | 感染症発生時の対応：感染防止の基本、 感染予防の観察ポイント |
| 18. | 入所系サービス提供の場とその特性（高齢者） | 41. | 介護職の健康と介護の質①：心の健康管理 体の健康管理 |
| 19. | 入所系サービスの提供の場とその特性（障害者） | 42. | 介護職の健康と介護の質②：心の健康管理 体の健康管理 |
| 20. | 他職種連携・・・他職種連携の意義と目的 | 43. | 安心して働ける環境づくり：労働環境の整備、 改善、労働安全の基本原則 |
| 21. | 協働職種の理解と連携の在り方 | 44. | 介護を目指す者 専門職業人としての介護福祉士 |
| 22. | 利用者を取り巻く地域連携の実際 | 45. | まとめ③ |
| 23. | 身近なサービスや機関の所在地 | — | |

| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | | |
|--|-----|-----------|
| 定期試験 | 提出物 | 授業への取組み姿勢 |
| 100% | 20% | 10% |
| 授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等) | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・次回授業の内容を提示しますので教科書を読み予習をしてください。 ・国家試験に向けて、講義の復習を心掛け、また、過去問題等問題集に取り組みましょう。 ・介護福祉に関するニュースや文献を意識し、多くの情報を取得するようにしてください。 | | |
| 使用テキスト | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 |
| 新・介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ | | 中央法規出版 |
| クエスチョンバンク 介護福祉士国家試験問題解説 2018 | | メディックメディア |
| 参考書又は参考資料等 | | |
| ○「新・介護福祉士養成講座 16 資料編」(中央法規出版) | | |
| その他の他 (受講生への要望等) | | |
| ・ボランティア活動に参加し、社会活動や対人援助の意義を会得することを望みます。 | | |
| 担当教員の連絡先等 | | |
| 担当教員 E-mail | その他 | |
| t.fumi@hcc.ac.jp | | |

| | | | |
|--|---|---------|-------------------------|
| 授 業 科 目 名 | コミュニケーション技術 | | |
| 担 当 者 名 | 竹並 正宏 | | |
| 科 目 コ ー ド | 2500004 | 授 業 形 態 | 演習 |
| 学 年 | 1 | 開 講 期 | 通年 |
| 単 位 数 | 2 | 履 修 方 法 | 介護福祉士必修 |
| 授業の概要と方法 | <p>介護福祉士には利用者に対するケアだけでなく、求められるさまざまなコミュニケーション技法についてより具体的な理解を促すために、多くの事例を取り上げコミュニケーションにおける意義と目的、記録、報告・連絡・相談、会議について連携をキーワードにまとめる。</p> <p>コミュニケーションをするのではなく在るものととらえることによりコミュニケーションの中心を常に利用者においてかかわることの大切さをテーマに介護技術の提供を通して生活を支援するという介護福祉士の専門性と人間の基本願望であるコミュニケーションとの関係を踏まえたかかわりのあり方を修得する。</p> | | |
| 授業の到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護技術の提供を通して生活を支援するという介護福祉士の専門性と人間の基本願望であるコミュニケーションとの関係の姿勢が身に付いている。 2. 新しい視点も提案し、深く理解することを目指し、積み重ねて介護福祉士の専門性につながるコミュニケーション技術の姿勢が身に付いている。 | | |
| 授 業 計 画 | | | |
| 1. | コミュニケーションの意義とその原因 | 16. | コミュニケーションの障害とその原因 |
| 2. | コミュニケーションの基本 | 17. | コミュニケーション障害の対応を考えるための視点 |
| 3. | 利用者・家族との信頼関係の形成 | 18. | コミュニケーション障害の対応の基本 |
| 4. | 利用者を深く理解するためのコミュニケーション技術 | 19. | 認知症に応じたコミュニケーション技術 |
| 5. | 人間に携わるコミュニケーション願望と介護の特性 | 20. | 視力・聴力障害に応じたコミュニケーション技術 |
| 6. | 生活支援における介護技術とコミュニケーション | 21. | 知的障害に応じたコミュニケーション技術 |
| 7. | 介護福祉士に求められるコミュニケーション技術 | 22. | 精神障害に応じたコミュニケーション技術 |
| 8. | 話を聴く技法 | 23. | チームのコミュニケーションとその方法 |
| 9. | 「事例」話を聴く技法 | 24. | 護における記録の意義と目的 |
| 10. | 感情表現を察する技法 | 25. | 記録の書き方と留意点 |
| 11. | 利用者の感情表現を察する技法 | 26. | 「報告」「連絡」「相談」の意義と目的 |
| 12. | 納得と同意を得る技法 | 27. | 「報告」「連絡」「相談」の具体的方法と留意点 |
| 13. | 質問の技法 | 28. | 会議の種類と運用 |
| 14. | 相談・助言・指導の技法 | 29. | チームのコミュニケーションにおける会議の必要性 |
| 15. | 利用者とのコミュニケーションのまとめ | 30. | 介護におけるコミュニケーションのまとめ |
| 成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】 | | | |
| 定期試験 | 授業への取組み姿勢 | レポート | |
| 50% | 30% | 20% | |
| 授 業 外 で 行 う べ き 学 習 （準備学習・事後学習等） | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士がコミュニケーションを通してクライアントを支援しようとする時には、クライアントの疾病以外も含めた生活全体を見渡す力を学習するため社会の諸問題に興味や関心を示す。 ・コミュニケーション障害の理解、傷害に応じたコミュニケーション技法について考え、適切にコミュニケーションを取ることができる。 | | | |
| 使 用 テ キ ス ト | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | |
| 新・介護福祉士養成講座 コミュニケーション技術 | | 中央法規出版 | |
| 参 考 書 又 は 参 考 資 料 等 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・毎回、使用テキストのまとめのプリントを配布し重要点を記入して参考資料としていく。 ・視聴覚教育や KJ 法を使いながら、より具体的に進めていく。 | | | |
| そ の 他 （受講生への要望等） | | | |
| ・コミュニケーションを通して、介護福祉士としての福祉の向上に貢献することを要望する。 | | | |
| 担 当 教 員 の 連 絡 先 等 | | | |
| 担当教員 E-mail | その他 | | |
| takenami@knwu.ac.jp | | | |

| | | | |
|--|---|----------|-----------------------------------|
| 授 業 科 目 名 | | 生活支援技術 I | |
| 担 当 者 名 | | 田中 文佳 | |
| 科 目 コ ー ド | 2500023 | 授 業 形 態 | 演習 |
| 学 年 | 1 | 開 講 期 | 前期 |
| 単 位 数 | 2 | 履 修 方 法 | 介護福祉士必修 |
| 授業の概要と方法 | 生活支援の基本的な考え方を理解し、介護を必要とされる方々の安全・快適な日常生活をサポートするための福祉用具の活用、住環境の整備、食生活及び被服生活の基本知識を学ぶ。介護の業務と生活支援の理論が融合できるように、演習を通して家庭生活の実際を体得する。 | | |
| 授業の到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の生活の営みを総合的に捉え、個々人の生活の継続性を支えることが介護福祉業務の核となることを理解する。 2. 生活支援・自立生活に向けた福祉用具の展開、住環境の整備方法、家事の実践力を身につける。 | | |
| 授 業 計 画 | | | |
| 1. | 生活支援技術とは | 16. | 生活支援技術と福祉用具の活用、福祉用具とは |
| 2. | 生活の場の特徴 | 17. | 代表的福祉用具の種類と機能活用する視点 |
| 3. | 生活の構成要素 | 18. | 福祉用具、住宅改修の利用、住環境の意義 |
| 4. | 生活経営の考え方 | 19. | 居住環境の整備、意義、目的、生活空間と介護、住まいにおける工夫 |
| 5. | 介護福祉士と生活支援 | 20. | 集団生活における工夫、快適な居住空間の条件 |
| 6. | ICFの視点と生活支援： ICFに基づいた生活支援の在り方 | 21. | 暮らしと環境問題 |
| 7. | 介護職と医療行為 | 22. | 安心して快適な生活の場作り、住まいの場における工夫 |
| 8. | 介護予防とは | 23. | 集団生活の場における工夫 |
| 9. | 介護保険と介護予防 | 24. | 快適な居住空間の条件 |
| 10. | 生活における介護予防の視点 | 25. | 他職種の役割と協働、連携の必要性、保健、医療関連職種、福祉関連職種 |
| 11. | リハビリテーションの視点での生活の再構築、活性化、生活支援 | 26. | 家庭生活に関わる基本的知識、家庭生活の理解 |
| 12. | 疾患別の特徴からみた生活の再構築、活性化 | 27. | 家庭生活の営み、生活設計の考え方、家計の収支・支出 |
| 13. | 生活の再構築の実際 | 28. | 家庭生活の営み、食生活の基本知識 |
| 14. | 介護者への支援 | 29. | 被服の基本知識 |
| 15. | まとめ① | 30. | まとめ② |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | | | |
| 定期試験 | | 提出物 | 授業への取組み姿勢 |
| 70% | | 20% | 10% |
| 授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等) | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・次回授業の内容を提示しますので教科書を読み予習をしてください。 ・国家試験に向けて講義の復習を心掛け、また、過去問題等問題集に取り組みましょう。 | | | |
| 使用テキスト | | | |
| 書籍名 | | 著者 | 出版社 |
| 新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I | | | 中央法規出版 |
| 参考書又は参考資料等 | | | |
| ○「新・介護福祉士養成講座 16 資料編」(中央法規出版) | | | |
| そ の 他 (受講生への要望等) | | | |
| ・生活支援理解の一環として、家事などの家庭生活の活動に積極的に取り組むことを望みます。 | | | |
| 担当教員の連絡先等 | | | |
| 担当教員 E-mail | | その他 | |
| t.fumi@hcc.ac.jp | | | |

| | | | |
|---|---|-----------|---------------------------------------|
| 授 業 科 目 名 | | 生活支援技術 II | |
| 担 当 者 名 | | 早瀬 亮子 | |
| 科 目 コ ー ド | 2500024 | 授 業 形 態 | 演習 |
| 学 年 | 1 | 開 講 期 | 前期 |
| 単 位 数 | 2 | 履 修 方 法 | 介護福祉士必修 |
| 授業の概要と方法 | <p>尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。また、介護環境の工夫や福祉機器の活用法を学び自立と健康を守る技術も習得する。</p> | | |
| 授業の到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な介護の知識、技術、態度を修得し利用者の状態に応じた適切な技法を活用した支援ができる。 ・介護の援助に応じた福祉用具、福祉機器の活用方法が習得できる。 ・ICF の概念に基づいたアセスメントから個々の利用者の生活活動の違いや、気づいた変化を系統的に理解する。 | | |
| 授 業 計 画 | | | |
| 1. | 介護者の健康・利用者の健康 | 16. | 前半技術の復習チェック評価 |
| 2. | 生活支援技術における意義と目的,実習室説明 | 17. | 自立に向けた衣類の交換介護 (意義と目的) (前開き・かぶり) |
| 3. | 自立に向けた住環境の整備 (意義と目的)、ICFに基づくアセスメン | 18. | 自立に向けた衣類の交換介護 (前開き・かぶり) I |
| 4. | 自立に向けた住環境の整備 (意義と目的) ベッドメイキング | 19. | 自立に向けた衣類の交換介護 (前開き) (かぶり) II |
| 5. | 自立に向けた住環境の整備 (ベッドメイキング) | 20. | 自立に向けた排泄の介護 (意義と目的) (おむつ・ポータブルトイレ) |
| 6. | 自立に向けた移動・移乗介護 (意義と目的) ボディメカニクス | 21. | 自立に向けた排泄の介護 (おむつ・ポータブルトイレ) |
| 7. | 自立に向けた移動・移乗介護 (体位変換) ボディメカニクス | 22. | 自立に向けた排泄の介護 (ポータブルトイレ・差し込み便器) |
| 8. | 自立に向けた移動・移乗介護 (体位変換) 一部介助・全介助 | 23. | 自立に向けた入浴の介護 (機械浴・一般浴) 前半 |
| 9. | 自立に向けた移動・移乗介護 (意義と目的) 歩行 | 24. | 自立に向けた入浴の介護 (機械浴・一般浴) 後半 |
| 10. | 自立に向けた移動・移乗介護 (歩行・車いす) | 25. | 自立に向けた食事の介護 (意義と目的) |
| 11. | 自立に向けた移動・移乗介護 (車いす) 移動 I | 26. | 自立に向けた食事の介護 (食事の実際) |
| 12. | 自立に向けた移動・移乗介護 (車いす) 移乗 I | 27. | 自立に向けた食事の介護 (口腔ケア) |
| 13. | 自立に向けた移動・移乗介護 (車いす) 移動 II | 28. | 後半技術の復習チェック |
| 14. | 自立に向けた移動・移乗介護 (車いす) 移乗 II | 29. | 実技試験① |
| 15. | 前半技術の復習チェック評価 | 30. | 実技試験② |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | | | |
| 定期試験 | 実技試験 | レポート | 授業への取組み姿勢 |
| 35% | 35% | 20% | 10% |
| 授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等) | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・教科書をもとに事前及び事後の学習。 ・授業後に次回講義の予習の説明を行います。 | | | |
| 使用テキスト | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | |
| 新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術 II | | 中央法規出版 | |
| 参考書又は参考資料等 | | | |
| ・適宜資料を配布する。 | | | |
| そ の 他 (受講生への要望等) | | | |
| ・実習室での演習授業のため、必ず時間厳守してください。(資料整理のためのファイルを用意) | | | |
| 担当教員の連絡先等 | | | |
| 担当教員 E-mail | その他 | | |
| hayase@hcc.ac.jp | | | |

| | | | |
|-----------|--|------------|------------------------------------|
| 授 業 科 目 名 | | 生活支援技術 III | |
| 担 当 者 名 | | 早瀬 亮子 | |
| 科 目 コ ー ド | 2500025 | 授 業 形 態 | 演習 |
| 学 年 | 1 | 開 講 期 | 通年 |
| 単 位 数 | 3 | 履 修 方 法 | 介護福祉士必修 |
| 授業の概要と方法 | 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。 | | |
| 授業の到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・原理原則に基づいた技術を習得したうえで、応用技術が適切に理解できる。 ・個別及び障害に応じた技術や、潜在能力を引き出した技術が実践できる。 ・ICF の概念に基づいたアセスメントから個々の利用者の生活活動の違いや気づいた変化を系統的に理解する。 ・自立支援に必要な介護の工夫や福祉用具の活用について理解する。 | | |
| 授 業 計 画 | | | |
| 1. | 介護を必要とする人の状態・状況について | 24. | 障害に応じた介護とは・生活の理解⑦ 清潔(手浴・足浴) |
| 2. | 自立に向けた基本的な生活支援(住環境)意義と目的 | 25. | 障害に応じた介護とは・生活の理解⑧ 清潔(洗身・洗髪について) |
| 3. | 自立に向けた基本的な生活支援 (移動・移乗)①意義と目的 | 26. | 観察とアセスメント①生活状態の観察 |
| 4. | 自立に向けた基本的な生活支援(移動・移乗)② | 27. | 観察とアセスメント②健康状態の観察 |
| 5. | 自立に向けた基本的な生活支援 (衣服着脱)意義と目的 | 28. | 視覚障害に応じた介護とは・生活の理解 |
| 6. | 自立に向けた基本的な生活支援(入浴)意義と目的 | 29. | 聴覚・言語障害に応じた介護とは・生活の理解 |
| 7. | 自立に向けた基本的な生活支援(清潔)意義と目的 | 30. | 運動機能障害に応じた介護とは・生活の理解① 環境整備 |
| 8. | 自立に向けた基本的な生活支援(食事)意義と目的 | 31. | 運動機能障害に応じた介護とは・生活の理解② 介護技術の展開 |
| 9. | 自立に向けた基本的な生活支援(口腔)意義と目的 | 32. | 内部障害に応じた介護とは・生活の理解① 心臓・腎臓 |
| 10. | 自立に向けた基本的な生活支援(住環境)事例 | 33. | 内部障害に応じた介護とは・生活の理解② 呼吸器・膀胱・直腸 |
| 11. | 自立に向けた基本的な生活支援(移動・移乗)事例 | 34. | 知的障害に応じた介護とは・生活の理解① |
| 12. | 自立に向けた基本的な生活支援(衣服着脱)事例 | 35. | 知的障害に応じた介護とは・生活の理解②事例 |
| 13. | 自立に向けた基本的な生活支援(入浴)事例 | 36. | 精神障害に応じた介護とは・生活の理解① |
| 14. | 自立に向けた基本的な生活支援(食事・口腔)事例 | 37. | 精神障害に応じた介護とは・生活の理解②事例 |
| 15. | まとめ① | 38. | 高次機能障害に応じた介護とは・生活の理解① |
| 16. | 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは | 39. | 高次機能障害に応じた介護とは・生活の理解②事例 |
| 17. | 高齢者・障害者の生活の理解 | 40. | 発達障害に応じた介護とは・生活の理解① |
| 18. | 障害に応じた介護とは・生活の理解 移動(麻痺のある利用者) | 41. | 発達障害に応じた介護とは・生活の理解②事例 |
| 19. | 障害に応じた介護とは・生活の理解 移動・移乗の一連の流れ | 42. | 認知症に応じた介護とは・生活の基本理解① |
| 20. | 障害に応じた介護とは・生活の理解 着脱(麻痺のある利用者) | 43. | 認知症に応じた介護とは・生活の理解② |
| 21. | 障害に応じた介護とは・生活の理解 着脱(座位・ベッド上)一連の流れ | 44. | 介護の総括 |
| 22. | 障害に応じた介護とは・生活の理解⑤ 排泄(麻痺のある利用者) | 45. | まとめ |
| 23. | 障害に応じた介護とは・生活の理解⑥ 排泄の一連の流れ | — | |

| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | | | |
|------------------------|------|------------|--|
| 定期試験 | レポート | 授業への取り組み姿勢 | |
| 70% | 20% | 10% | |
| 授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等） | | | |
| ・教科書をもとに事前及び事後の学習。 | | | |
| 使用テキスト | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | |
| 新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ | | 中央法規出版 | |
| 新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ | | 中央法規出版 | |
| 参考書又は参考資料等 | | | |
| ・適宜資料配布する。 | | | |
| その他の（受講生への要望等） | | | |
| ・資料整理のためのファイルを用意。 | | | |
| 担当教員の連絡先等 | | | |
| 担当教員 E-mail | その他 | | |
| hayase@hcc.ac.jp | | | |

| | | | |
|--|--|-----------------------|------------|
| 授 業 科 目 名 | | 形態別介護技術（点字） | |
| 担 当 者 名 | | 尾形 満歳 | |
| 科 目 コ ー ド | 2500008 | 授 業 形 態 | 演習 |
| 学 年 | 1 | 開 講 期 | 通年（全 15 回） |
| 単 位 数 | 1 | 履 修 方 法 | 介護福祉士必修 |
| 授業の概要と方法 | 視覚障害者の文字である点字の必要性と特性について学び、基礎から応用へと段階的に学習を進める。授業の後半では、パソコンを利用した点字入力方法を学び、情報機器の進歩を知る。また、視覚障害疑似体験による歩行や日常生活動作の演習や、視覚に頼らない生活の知恵などを知ることで視覚障害者への理解を深める。 | | |
| 授業の到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 点字および点訳の知識と技術を習得し、初歩的な点字の読み書きが出来るようになり、視覚障害者の コミュニケーションの手段の一つである点字の必要性と特性を理解する。 視覚障害疑似体験をすることにより、視覚障害者に対して、どのような支援・介助をすればよいのか考 えられるようにする。 | | |
| 授 業 計 画 | | | |
| 1. | 視覚障害者とコミュニケーション…視覚障害者の特性や点字の必要性について | | |
| 2. | 点字表記法①…点字の基礎、50音 | | |
| 3. | 点字表記法②…点字の基礎、濁音、半濁音 | | |
| 4. | 点字表記法③…点字の構成や分かち書き（数字、アルファベット） | | |
| 5. | 点字表記法④…点字の構成や分かち書き（かぎカッコなどの記号類） | | |
| 6. | 演習①…視覚障害疑似体験（歩行） | | |
| 7. | 演習②…視覚障害疑似体験（弱視の日常生活動作） | | |
| 8. | 点字表記法⑤…点字の構成や分かち書き（文字、英数の混じり文） | | |
| 9. | 点字表記法⑥…前回までの表記法を利用し、文章を書く | | |
| 10. | パソコンを利用した点訳①…点訳ソフトの基礎 | | |
| 11. | パソコンを利用した点訳②…パソコン 6 点入力での文章作成 | | |
| 12. | パソコンを利用した点訳③…点訳本の作成（見出し、レイアウト） | | |
| 13. | 演習③…地図や絵等の触図を作成する | | |
| 14. | パソコンを利用した点訳④…点訳本の作成（本文の行移動、目次） | | |
| 15. | パソコンを利用した点訳⑤…点訳本の作成（点訳本課題の講評、まとめ） | | |
| 成 績 評 価 の 方 法 〔評価項目と割合〕 | | | |
| 毎時間の授業への取り組み姿勢と課題 | | レポート提出 | 定期試験 |
| 30% | | 20% | 50% |
| 授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等） | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 毎時間を積み重ねて理解していく学習なので、前回までの復習をして講義を受けること。 また、視覚障害者の立場になって想像し、考えながら課題に取り組むこと。 | | | |
| 使 用 テ キ ス ト | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | |
| 初めての点訳 [第二版] | 全国視覚障害情報提供施設協会 | 全国視覚障害情報提供施設協会 | |
| 参考書又は参考資料等 | | | |
| 特になし | | | |
| そ の 他（受講生への要望等） | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 講義の日程等については、オリエンテーション時に説明します。 | | | |
| 担当教員の連絡先等 | | | |
| 担当教員 E-mail | | その他 | |
| oga41mitsu@yahoo.co.jp | | 毎講義終了後 10 分間は質問など対応可。 | |

| | | | |
|--|---|---------|---------|
| 授 業 科 目 名 | 福祉住環境論 | | |
| 担 当 者 名 | 吉田 大輔 | | |
| 科 目 コ ー ド | 2500009 | 授 業 形 態 | 講義 |
| 学 年 | 1 | 開 講 期 | 前期 |
| 単 位 数 | 2 | 履 修 方 法 | 介護福祉士必修 |
| 授業の概要と方法 | 多様な障害を持つ者の生活環境についての理解を深める。その理解をもとに、障がい者に対する具体的な生活環境支援の在り方等について学習する。 | | |
| 授業の到達目標 | 在宅環境の整備、構築という観点から、障害者や高齢者に対する生活支援の具体策を提示できる。 | | |
| 授 業 計 画 | | | |
| 1. | オリエンテーション（福祉住環境コーディネーターとは） | | |
| 2. | 在宅における環境整備の基礎（DVDの視聴） | | |
| 3. | 生活行為別にみた福祉用具の活用（起居・就寝） | | |
| 4. | 生活行為別にみた福祉用具の活用（移動） | | |
| 5. | 生活行為別にみた福祉用具の活用（排泄、入浴、その他） | | |
| 6. | 福祉用具の特性を発表する | | |
| 7. | 福祉住環境整備の基本技術（段差） | | |
| 8. | 福祉住環境整備の基本技術（手すり） | | |
| 9. | 福祉住環境整備の基本技術（スペース） | | |
| 10. | キャンパス内の環境調査と報告 | | |
| 11. | 生活行為別福祉住環境整備の手法（アプローチ） | | |
| 12. | 生活行為別福祉住環境整備の手法（屋内移動） | | |
| 13. | 生活行為別福祉住環境整備の手法（トイレ） | | |
| 14. | 生活行為別福祉住環境整備の手法（浴室、脱衣所） | | |
| 15. | 総括 | | |
| 成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】 | | | |
| 定期試験 | 授業への取組み姿勢 | | |
| 80% | 20% | | |
| 授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等） | | | |
| ・演習課題は授業外の時間を利用して完成させること。 | | | |
| 使 用 テ キ ス ト | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | |
| 福祉住環境コーディネーター検定試験 3級公式テキスト〔改訂4版〕 | | 東京商工会議所 | |
| 参 考 書 又 は 参 考 資 料 等 | | | |
| 特になし（適宜、資料を配布する） | | | |
| そ の 他（受講生への要望等） | | | |
| ・福祉住環境コーディネーター2級の取得を目指す学生はぜひ受講してください。 また、“介護・福祉機器展”への自主的な参加を強く勧めます。 | | | |
| 担 当 教 員 の 連 絡 先 等 | | | |
| 担当教員 E-mail | その他 | | |
| yoshida.d@knwu.ac.jp | | | |

| | | | |
|--|--|----------|-------------------|
| 授 業 科 目 名 | 家事の介護 | | |
| 担 当 者 名 | 早瀬 亮子 ・ 梅林 千恵子 | | |
| 科 目 コ ー ド | 2500010 | 授 業 形 態 | 講義・演習 |
| 学 年 | 1 | 開 講 期 | 後期 |
| 単 位 数 | 2 | 履 修 方 法 | 介護福祉士必修 |
| 授業の概要と方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・利用者が生活を継続して行く為には家事に関する支援は必要不可欠。調理、掃除買い物等日常的な家事の手段を通じて、利用者を主体とした生活の維持、再構築の視点、具体的な方法、家事支援や地域サービスの活用の仕方を学ぶ ・人間が健康な生活を営むために必要な五大栄養素の働きを理解した上で、高齢者の身体的特徴を考慮しながら、QOLの低下を予防あるいは遅延させる方法を学ぶ。その基本には日々の食事内容が深く関わっていることを認識し、ふさわしい食事形態を学ぶ。 | | |
| 授業の到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者の自立、自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることを含めた適切な介護技術を修得し自立に向けた家事の介護を具体化するための知識、技術を身に付ける。 2. 五大栄養素の働きやバランスのとれた食事について理解できる。 3. 基本的な調理操作ができる。 4. 高齢者にふさわしい食事形態が理解できる。 5. 安全で衛生的に調理操作ができる。 6. 嚥下困難者に対する調理法が実践できる | | |
| 授 業 計 画 | | | |
| 1. | 家事支援の意義と専門性 | (早瀬) | |
| 2. | 在宅サービスにおける家事支援(調理・買い物) | (早瀬) | |
| 3. | 在宅サービスにおける家事支援(掃除) | (早瀬) | |
| 4. | 在宅サービスにおける家事支援(衣類・洗濯) | (早瀬) | |
| 5. | 家庭経営と家計管理(他職種連携) | (早瀬) | |
| 6. | 緊急時の対応について | (早瀬) | |
| 7. | 講義 五大栄養素とその働き、バランスのとれた食事、調理の基本 | (梅林) | |
| 8. | 講義 家庭でできる食中毒予防、高齢者の身体変化 | (梅林) | |
| 9. | 実習 基本的な調理① 一般食 魚料理 | (梅林) | |
| 10. | 実習 基本的な調理② 一般食 肉料理 | (梅林) | |
| 11. | 実習 基本的な調理③ 軟菜食 正月料理 | (梅林) | |
| 12. | 実習 基本的な調理④ 軟菜食 豆腐料理 | (梅林) | |
| 13. | 実習 基本的な調理⑤ 軟菜食 粥料理 | (梅林) | |
| 14. | 実習 基本的な調理⑥ お楽しみメニュー | (梅林) | |
| 15. | 講義 まとめ | (梅林) | |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | | | |
| 定期試験 | レポート提出 | 調理実習レポート | 実習態度(分配や身だしなみも含む) |
| 60% | 10% | 20% | 10% |
| 授業外で行うべき学習(準備学習・事後学習等) | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・生活はあまり意識されずに日々流れていきます。身の回りに意識して関心を持つように配慮した生活をしてください。 ・高齢者にふさわしい食事形態を考え、レポートにまとめて提出。 | | | |
| 使用テキスト | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | |
| 新・介護福祉士養成講座 生活支援技術 I | | 中央法規出版 | |
| ※調理実習は献立資料を配布する。 | | | |
| 参考書又は参考資料等 | | | |
| ○「新・介護福祉士養成講座 資料編 介護福祉士国家試験模擬問題習」(中央法規出版) | | | |
| そ の 他 (受講生への要望等) | | | |
| ・軟菜食を試食することにより、高齢者の立場に立った食事を考えられる人になってください。 | | | |
| 担当教員の連絡先等 | | | |
| 担当教員 E-mail | | その他 | |
| hayase@hcc.ac.jp (早瀬) | | | |
| umebayashi@hcc.ac.jp (梅林) | | | |

| | | | |
|-----------|---|---------|------------------------------|
| 授 業 科 目 名 | 介護過程 I | | |
| 担 当 者 名 | 早瀬 亮子 | | |
| 科 目 コ ー ド | 2500026 | 授 業 形 態 | 演習 |
| 学 年 | 1 | 開 講 期 | 前期 |
| 単 位 数 | 6 | 履 修 方 法 | 介護福祉士必修 |
| 授業の概要と方法 | 介護過程では、専門的知識・技術を統合し科学的思考過程に基づいた展開について理解し、利用者の望む生活の実現を支援するため課題と解決について、アセスメント、自立支援に沿った介護計画の立案・実施・評価、多職種協働によるチームアプローチの必要性について習得する。 | | |
| 授業の到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・介護の意義が理解でき一連の過程を説明できる。 ・社会資源を活用し、介護、医療、保健との連携協働を活かした介護実践計画を展開できる。 | | |
| 授 業 計 画 | | | |
| 1. | オリエンテーション 介護過程の意義・目的について | 24. | 個別援助計画の立案 事例②（施設） 認知症の利用者 |
| 2. | 介護過程の展開・介護過程とは | 25. | 個別援助計画の立案 事例② |
| 3. | 適切な介護とは 生活支援の考え方について | 26. | 個別援助計画の立案 事例② 発表 |
| 4. | ICF（国際生活機能分類）について | 27. | 介護計画の実施準備 支援内容・方法 |
| 5. | ICF（国際生活機能分類） | 28. | 介護計画の実施の際の留意点 |
| 6. | 介護過程の展開② 情報収集の留意点について | 29. | 介護計画の実施の記録について① |
| 7. | 介護過程の展開③ 情報収集とアセスメント | 30. | 介護計画の実施の記録② |
| 8. | 介護過程の展開④ アセスメントの実際 | 31. | 介護過程の展開⑩ 評価の目的や内容・方法について |
| 9. | 事例から基本情報の作成① 記録用紙の書き方 | 32. | 介護過程の展開⑪ 評価の留意点 |
| 10. | 事例から基本情報の作成② 事例を活用した記録用紙の書き方 | 33. | 事例①②の評価 |
| 11. | 介護過程の展開⑤ 生活支援の課題・目標の捉え方について | 34. | 事例①②の評価をまとめる |
| 12. | 介護過程の展開⑥ 生活支援の課題・目標の捉え方の実際 | 35. | 介護過程の実践的展開 事例（A）施設 |
| 13. | 介護過程の展開⑦ 介護計画について | 36. | 介護過程の実践的展開 事例 展開 |
| 14. | 介護過程の展開⑧ 介護計画の作成について | 37. | 介護過程の実践的展開 事例 まとめ |
| 15. | 介護過程の展開⑨ 介護計画の作成の実際 | 38. | 介護過程の実践的展開 事例（B）施設 |
| 16. | 介護サービスについて① 介護保険制度によるサービス（施設） | 39. | 介護過程の実践的展開 事例 展開 |
| 17. | 介護サービスについて② 介護保険制度によるサービス（在宅） | 40. | 介護過程の実践的展開 事例 まとめ |
| 18. | 介護過程の実践的展開① 日常生活のアセスメント | 41. | 介護過程の実践的展開 事例（C）在宅 |
| 19. | 介護過程の実践的展開② 日常生活のアセスメント まとめ | 42. | 介護過程の実践的展開 事例 展開 |
| 20. | 個別援助計画の立案とは | 43. | 介護過程の実践的展開 事例 まとめ |
| 21. | 個別援助計画の立案 事例①（施設） 日常生活動作に支障のある利用者 | 44. | 振り返り |
| 22. | 個別援助計画の立案 事例① | 45. | まとめ |
| 23. | 個別援助計画の立案 事例① 発表 | — | |

| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | | |
|--|------------|---------|
| 定期試験 | 授業への取組み姿勢 | |
| 80% | 20% | |
| 授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等) | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 教科書をもとに事前及び事後の学習 | | |
| 使用テキスト | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 |
| 介護福祉士養成テキスト 12 介護過程の展開 | 黒澤貞夫、峯尾武巳 | 建帛社 |
| 社会福祉小六法 2016 | ミネルヴァ書房編集部 | ミネルヴァ書房 |
| 参考書又は参考資料等 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 適宜資料を配布する。 授業の中で適宜紹介する。 | | |
| その他の (受講生への要望等) | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 授業ファイルを作成すること。 提出物は期日を守ること。 | | |
| 担当教員の連絡先等 | | |
| 担当教員 E-mail | その他 | |
| hayase@hcc.ac.jp | | |

| | | | |
|--|---|------------|----------------|
| 授 業 科 目 名 | | 介護過程 II | |
| 担 当 者 名 | | 早瀬 亮子 | |
| 科 目 コ ー ド | 2500027 | 授 業 形 態 | 演習 |
| 学 年 | 1 | 開 講 期 | 後期 |
| 単 位 数 | 4 | 履 修 方 法 | 介護福祉士必修 |
| 授業の概要と方法 | 介護過程を学ぶ最終段階として、利用者のニーズに沿った介護ができるよう介護過程の理論と実習体験を関連づける。また、ICF を取り入れた介護過程における評価の視点を学ぶ。チームアプローチの重要性と介護福祉士として求められる専門性の自覚、専門職としてのアイデンティティの確立を目指す。 | | |
| 授業の到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・介護の意義が理解でき一連の過程を説明できる。 ・社会資源を活用し、介護、医療、保健との連携協働を活かした介護実践計画を展開できる。 | | |
| 授 業 計 画 | | | |
| 1. | 実習における介護過程の取り組み方について① | 16. | 実習事例記録まとめ④確認提出 |
| 2. | 実習における介護過程の取り組み方について② | 17. | 実習事例記録作成① |
| 3. | 実習における介護過程の事例の展開（情報収集）①まとめ | 18. | 実習事例記録作成② |
| 4. | 実習における介護過程の事例の展開（情報収集）②まとめ 記録確認 | 19. | 実習事例記録作成③ |
| 5. | 実習における介護過程の事例の展開（アセスメント）①まとめ | 20. | 実習事例記録作成④確認提出 |
| 6. | 実習における介護過程の事例の展開（アセスメント）②まとめ | 21. | 事例発表準備① |
| 7. | 実習における介護過程の事例の展開（アセスメント）③まとめ | 22. | 事例発表準備② |
| 8. | 実習における介護過程の事例の展開（アセスメント）④まとめ 記録確認 | 23. | 事例発表準備③ |
| 9. | 実習における介護過程の事例の展開（介護計画）①まとめ | 24. | 事例発表準備④記録提出 |
| 10. | 実習における介護過程の事例の展開（介護計画）②まとめ | 25. | 事例研究発表① |
| 11. | 実習における介護過程の事例の展開（介護計画）③まとめ | 26. | 事例研究発表② |
| 12. | 実習における介護過程の事例の展開（介護計画）④まとめ 記録確認 | 27. | 事例研究総括① |
| 13. | 実習事例記録まとめ① | 28. | 事例研究総括② |
| 14. | 実習事例記録まとめ② | 29. | 介護過程まとめ |
| 15. | 実習事例記録まとめ③ | 30. | まとめ |
| 成績評価の方法 〔評価項目と割合〕 | | | |
| 介護過程事例研究レポート | | 授業への取り組み姿勢 | |
| 80% | | 20% | |
| 授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等） | | | |
| ・実習での実践内容を必ず記録し、メモについても残しておくこと。 | | | |
| 使用テキスト | | | |
| 書籍名 | | 著者 | 出版社 |
| 介護福祉士養成テキスト12 介護過程の展開 | | 黒澤貞夫、峯尾武巳 | 建帛社 |
| 参考書又は参考資料等 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・適宜資を配布する。 ・授業の中で適宜紹介する。 | | | |
| そ の 他（受講生への要望等） | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・授業ファイルを作成すること。 ・提出物は期日を守ること。 | | | |
| 担当教員の連絡先等 | | | |
| 担当教員 E-mail | | その他 | |
| hayase@hcc.ac.jp | | | |

| | | | |
|--|---|---------|---------|
| 授 業 科 目 名 | 介護総合演習 I | | |
| 担 当 者 名 | 田中 文佳 | | |
| 科 目 コ ー ド | 2500028 | 授 業 形 態 | 演習 |
| 学 年 | 1 | 開 講 期 | 前期 |
| 単 位 数 | 1 | 履 修 方 法 | 介護福祉士必修 |
| 授業の概要と方法 | 介護実習施設の概要を理解し、実習に出向く心構えや基礎知識の学習、学びの視点等を深める。また、生活支援技術やコミュニケーション技術、こころとからだ等他科目を融合しながら、介護を必要とされる方々の個別支援に必要なケアについて自ら考える力を培う。グループワーク、個別課題、実習報告会を通して、介護実習への意識を高めながら専門意識の向上を目指す。 | | |
| 授業の到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護福祉士養成教育における実習の意義・目的を理解することができる。 2. 介護保険制度を理解し、実習施設の役割、機能、業務内容、介護福祉士の専門性について理解する。 3. 実習生として必要な礼儀、学ぶ態度、コミュニケーション能力、記録の記載及び社会性を身につける。 | | |
| 授 業 計 画 | | | |
| 1. | 介護総合演習の位置づけと目的：他科目での学びの統合性 | | |
| 2. | 「介護実習 I」の目的と内容 | | |
| 3. | 事前学習の意義と目的：介護実習開始までの流れと事前学習 | | |
| 4. | 書類の作成と準備について（個人票・実習計画書・オリエンテーション準備ほか） | | |
| 5. | 介護実習記録の書き方 ① | | |
| 6. | 介護実習記録の書き方 ② | | |
| 7. | 介護保険制度と介護実習の種類 | | |
| 8. | 実習先の特徴と学ぶべきポイント 個別課題の提出 | | |
| 9. | 訪問介護 | | |
| 10. | 通所介護 | | |
| 11. | グループホーム | | |
| 12. | 障害者支援施設 | | |
| 13. | ケアハウス | | |
| 14. | 実習後指導 自己評価・実習報告書の作成 | | |
| 15. | 実習後報告会 まとめ | | |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | | | |
| 施設の実習評価 | 提出物 | | |
| 70% | 30% | | |
| 授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等） | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・既得した基礎的介護技術は実習室等を利用し、自主的に復習を繰り返し、実習先での応用につなげてください。 ・実習現場では、レクリエーションを実践する機会がありますので、高齢者や介護が必要な方々に適した造形、音楽、体操等を調べ、準備をしてください。 ・実習記録の記載に向け、日頃から活字を読み、論理的な文章の組み立てを意識してください。 | | | |
| 使用テキスト | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | |
| 新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 | | 中央法規出版 | |
| 実習の手引き | 東筑紫短期大学専攻科 | | |
| 参考書又は参考資料等 | | | |
| ○「社会福祉小六法 2018」（ミネルヴァ書房） | | | |
| そ の 他（受講生への要望等） | | | |
| ・ボランティア活動に参加し、社会活動や対人援助の意義を会得することを望みます。 | | | |
| 担当教員の連絡先等 | | | |
| 担当教員 E-mail | その他 | | |
| t.fumi@hcc.ac.jp | | | |

| | | | |
|---|---|---------|---------|
| 授 業 科 目 名 | 介護総合演習 II | | |
| 担 当 者 名 | 田中 文佳 | | |
| 科 目 コ ー ド | 2500029 | 授 業 形 態 | 演習 |
| 学 年 | 1 | 開 講 期 | 後期 |
| 単 位 数 | 1 | 履 修 方 法 | 介護福祉士必修 |
| 授業の概要と方法 | 2 段階の実習先である介護保険施設の概要と要介護度の高い方々への専門的支援のあり方について確認していく。これまでの学習内容を融合し、保健、医療、福祉の分野における介護福祉士としての役割と独自性を明確に理解できることを目指す。また、理論的根拠に基づく実践、記録の記載の習得に向けて、事例研究、グループワークに取り組む。実習終了後は報告会を実施する。多様な意見交換を通して自己覚知と客観的自己評価へとつなげていく。 | | |
| 授業の到達目標 | 1. 介護保険施設の役割や機能、業務内容及び他職種によるチームアプローチを理解し、介護福祉士の専門性と役割を理解できる。 2. 理論的根拠に基づく介護技術実践の認識、記録の記載、ADL 及び病状を含めた利用者理解ができる。 3. 介護保険施設と地域社会の関連機関とのつながり等施設の社会的役割への視野を広げ、今後の施設のあり方について展望できる。 | | |
| 授 業 計 画 | | | |
| 1. | 介護福祉施設の特徴とポイント：「介護実習Ⅱ」のねらい | | |
| 2. | 介護老人福祉施設の概要 | | |
| 3. | 介護老人保健施設の概要 | | |
| 4. | 「介護実習Ⅱ」の実習前指導 | | |
| 5. | ①個人表・実習計画書等の作成 | | |
| 6. | ②生活支援的根拠に基づく記録の書き方 | | |
| 7. | ③レクリエーション活動の意義と重要性と実際 | | |
| 8. | ④時間外勤務、夜間勤務の概要 | | |
| 9. | ⑤様々な疾病と ADL | | |
| 10. | ⑥他職種連携の具体的実践と重要性、地域社会とのつながり | | |
| 11. | ⑦個別支援のあり方（介護過程の展開） | | |
| 12. | ⑧事例研究 | | |
| 13. | 「介護実習Ⅱ」の実習後指導 自己評価表及び報告書の作成 | | |
| 14. | 実習報告会 | | |
| 15. | 介護実習全体の振り返りとまとめ | | |
| 成 績 評 価 の 方 法 【評価項目と割合】 | | | |
| 施設の実習評価 | 提出物 | | |
| 70% | 30% | | |
| 授 業 外 で 行 う べ き 学 習 （ 準 備 学 習 ・ 事 後 学 習 等 ） | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 既得した基礎的介護技術は実習室等を利用し、自主的に復習を繰り返し、実習先での応用につなげてください。 ・ 実習現場では、レクリエーションを実践する機会がありますので、高齢者や介護が必要な方々に適した造形、音楽、体操等を調べ、準備をしてください。 ・ 実習記録の記載に向け、日頃から活字を読み、論理的な文章の組み立てを意識してください。 ・ 介護計画策定に向け、日常生活の中においても、収集した情報を整理、分析する視点を心掛けるよう望みます。 | | | |
| 使 用 テ キ ス ト | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | |
| 新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 | | 中央法規出版 | |
| 実習の手引き | 東筑紫短期大学専攻科 | | |
| 参 考 書 又 は 参 考 資 料 等 | | | |
| ○「社会福祉小六法 2018」 （ミネルヴァ書房） | | | |
| そ の 他 （ 受 講 生 へ の 要 望 等 ） | | | |
| ・ ボランティア活動に参加し、社会活動や対人援助の意義を会得することを望みます。 | | | |
| 担 当 教 員 の 連 絡 先 等 | | | |
| 担当教員 E-mail | その他 | | |
| t.fumi@hcc.ac.jp | | | |

| | | | |
|--|--|---------|---------|
| 授 業 科 目 名 | 介護実習 I | | |
| 担 当 者 名 | 田中 文佳 ・ 早瀬 亮子 ・ 奥川 満子 | | |
| 科 目 コ ー ド | 2500015 | 授 業 形 態 | 実習 |
| 学 年 | 1 | 開 講 期 | 通年 |
| 単 位 数 | 3 | 履 修 方 法 | 介護福祉士必修 |
| 授業の概要と方法 | 多様な介護サービスに対応できる介護福祉士の養成という観点から、5日間と10日間に分けて介護現場に出向く。介護を必要とされる方々の多様な暮らしの場を理解し、介護福祉士としての専門性を習得する。介護の基本、生活支援技術、コミュニケーション技術、こころとからだのしくみ等他科目との総合学習の場として基礎知識の確認と応用力の育成を目指す。 | | |
| 授業の到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護を必要とされている方々の思いを受容し、介護福祉業務のやりがいを感じとる。 2. 実習施設、事業所等の概要、機能を理解する。 3. 安全かつ快適な介護技術を体験する。 4. 多様な利用者の方々や家族とのコミュニケーション能力を養い、相手の立場に立って考える姿勢を習得する。 5. 尊厳の保持と自立の支援の理念に基づき、一人ひとりの個別ニーズを洞察し、介護過程の展開を考察する。 | | |
| 授 業 計 画 [学外実習の内容含む] | | | |
| 実習区分 [5日間] | | | |
| 施設種別 認知症対応型共同生活施設 (グループホーム) | | | |
| 実習期間 前期 【5日間】 6月 5日 (月) ~6月 9日 (金) | | | |
| 実習目標 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症対応型共同生活施設の概要を知り、特性を知る。 2. 日常生活上の基本的な生活支援技術や知識の習得および提供するサービスの方法と実際に学ぶ。 | | | |
| 実習区分 [10日間] | | | |
| 施設種別 小規模多機能施設 (訪問介護) | | | |
| 実習期間 前期 【10日間】 7月 3日 (月) ~7月 14日 (金) | | | |
| 実習目標 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 小規模多機能施設の概要を知り、特性を知る。 2. 日常生活上の基本的な生活支援技術や知識の習得および提供するサービスの方法と実際に学ぶ。 | | | |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | | | |
| 各施設の実習評価 | 提出物 | | |
| 80% | 20% | | |
| 授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等) | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・施設オリエンテーションへの参加と報告 ・実習記録の提出日は厳守 ・実習に相応しい服装、髪型、化粧を心掛けてください。 ・既得した基礎的介護技術は実習室等を利用し、自主的に復習を繰り返し、実習先での応用につなげてください。 ・実習現場では、レクリエーションを実践する機会がありますので、高齢者や介護が必要な方々に適した造形、音楽、体操等を調べ、準備をしてください。 | | | |
| 使用テキスト | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | |
| 新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 | | 中央法規出版 | |
| 実習の手引き | 東筑紫短期大学専攻科 | | |
| 参考書又は参考資料等 | | | |
| ○「新・介護福祉士養成講座 16 資料編」(中央法規出版) | | | |
| そ の 他 (受講生への要望等) | | | |
| ・日頃より体調管理を心掛けるようにしてください。 | | | |
| 担当教員の連絡先等 | | | |
| 担当教員 E-mail | その他 | | |
| t.fumi@hcc.ac.jp (田中) / hayase@hcc.ac.jp (早瀬) / mokgawa@hcc.ac.jp (奥川) | | | |

| | | | |
|--|---|---------|---------|
| 授 業 科 目 名 | 介護実習 II | | |
| 担 当 者 名 | 田中 文佳 ・ 早瀬 亮子 ・ 奥川 満子 | | |
| 科 目 コ ー ド | 2500016 | 授 業 形 態 | 実習 |
| 学 年 | 1 | 開 講 期 | 後期 |
| 単 位 数 | 4 | 履 修 方 法 | 介護福祉士必修 |
| 授業の概要と方法 | 入所施設（指定介護老人福祉施設、介護老人保健施設）での実習を 20 日間実施する。途中帰校日を設け、実習目標の達成度や介護過程の進捗状況等の確認、指導を行う。安心、快適な介護の実践、個別支援計画の立案と実施（介護過程の展開）、他職種との連携、時間外勤務（夜勤等）の体験を通し、既得した知識と技術を総合しながら実践力の習得を目指す。 | | |
| 授業の到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 尊厳の保持と自立の支援を土台とした利用者理解にのぞみ、個別ケアの視点のもと介護過程の情報収集及びアセスメント、立案ができる。また、プランの実践に取り組む。 2. 他職種の専門領域を理解し、介護福祉士としての専門性や職業倫理を念頭に置きながらチームアプローチを実践する。 3. 利用者の方々やその家族への直接支援に携わるなか、介護福祉業務のやりがいと社会貢献の意義を見出し、自分なりの介護観を確立する。 | | |
| 授 業 計 画 [学外実習の内容含む] | | | |
| 実習区分 [20日間] | | | |
| 施設種別 介護老人福祉施設・介護老人保健施設 | | | |
| 実習期間 後期 【20日間】 9月 25日（月）～10月 20日（金） | | | |
| 中間帰校日：学校に登校して実習の振り返りと後半の行動目標設定の評価、修正を行う。 | | | |
| 実習目標 | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護老人福祉施設・介護老人保健施設の役割と機能が理解できる。 2. 要介護者にとって合理的で安全な介護の展開方法を習得する。 3. 利用者個々の生活リズムや個性を理解したうえで、利用者との介護関係を築くことができる。 4. ひとりの利用者を受け持ち、多角的に理解を深め個別介護の実践能力を養う。 5. 多職種協働のチームアプローチの方法が理解できる。 | | | |
| ※実習期間中は実習担当者が 1 週間に 1 回の割合で訪問指導を行う。 | | | |
| 訪問指導を行うことにより実習担当者との連携を図りより充実した内容の実習にする。 | | | |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | | | |
| 施設実習評価表 | 提出物 | | |
| 80% | 20% | | |
| 授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等） | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・施設オリエンテーションへの参加と報告 ・実習記録の提出日は厳守 ・実習に相応しい服装、髪型、化粧を心掛けてください。 ・既得した基礎的介護技術は実習室等を利用し、自主的に復習を繰り返し、実習先での応用につなげてください。 ・実習現場では、レクリエーションを実践する機会がありますので、高齢者や介護が必要な方々に適した造形、音楽、体操等を調べ、準備をしてください。 | | | |
| 使用テキスト | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | |
| 新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 | | 中央法規出版 | |
| 実習の手引き | 東筑紫短期大学専攻科 | | |
| 参考書又は参考資料等 | | | |
| ○「新・介護福祉士養成講座 16 資料編」（中央法規出版） | | | |
| そ の 他（受講生への要望等） | | | |
| ・日頃より体調管理を心掛けるようにしてください。 | | | |
| 担当教員の連絡先等 | | | |
| 担当教員 E-mail | その他 | | |
| t.fumi@hcc.ac.jp（田中）／hayase@hcc.ac.jp（早瀬）／mokgawa@hcc.ac.jp（奥川） | | | |

| | | | |
|------------------------|--|---------|---------|
| 授 業 科 目 名 | 発達と老化の理解 | | |
| 担 当 者 名 | 早瀬 亮子 | | |
| 科 目 コ ー ド | 2500017 | 授 業 形 態 | 講義 |
| 学 年 | 1 | 開 講 期 | 後期 |
| 単 位 数 | 2 | 履 修 方 法 | 介護福祉士必修 |
| 授業の概要と方法 | 介護サービスを提供するに際して、利用者の人格の尊厳と自立への尊厳の意味の理解を深める。また、発達と老化の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎知識を修得し、高齢者に多い症状・疾病等の支援のあり方について学ぶことを目的とする。授業は、講義を中心とし、グループワークを通し、高齢者の理解を深めていく。 | | |
| 授業の到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の成長と発達の基礎的知識を理解することができる。 2. 老化に伴うところとからだの変化について理解することができる。 3. 老年期の発達と成熟について理解できる。 4. 老化が及ぼす日常生活への影響を具体的な実践に結び付けて理解できる 5. 高齢者の健康について、実践や事例を通して学び、実践できるようになる。 | | |
| 授 業 計 画 | | | |
| 1. | 人間の成長と発達 発達の定義・発達段階 | | |
| 2. | 人間の成長と発達 発達課題：グループワーク | | |
| 3. | DVD 観賞 「老いとは」感想をレポート | | |
| 4. | 老年期の発達と成熟 定義・発達課題 | | |
| 5. | 老年期の発達と成熟 老人福祉 | | |
| 6. | 老年期の発達課題 人格と尊厳 | | |
| 7. | 老年期の発達課題 老いの価値、喪失体験、セクシュアリティ | | |
| 8. | 老化に伴う心身の変化の特徴 防御反応（反射神経）の変化、適応力の変化 | | |
| 9. | 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 | | |
| 10. | 社会や家庭での役割を失う高齢者の気持ち：グループワーク | | |
| 11. | 老化を受け止める高齢者の気持ち : グループワーク | | |
| 12. | 高齢者の心理と生活上の留意点 : 高齢者の症状の現れかたの特徴 | | |
| 13. | 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 | | |
| 14. | 保健医療職とその連携について | | |
| 15. | まとめ | | |
| 成績評価の方法 | 〔評価項目と割合〕 | | |
| 定期試験 | レポート及び授業への取り組み姿勢 | | |
| 80% | 20% | | |
| 授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等） | | | |
| | ・グループワークの課題は、事前にレポートで宿題とします。ゆえに、レポートの提出期限は守って下さい。 | | |
| 使用テキスト | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | |
| 発達と老化の理解 [第3版] | 介護福祉士養成編集委員会 | 中央法規出版 | |
| 参考書又は参考資料等 | | | |
| | ・授業の中で参考書や文献を紹介する。 | | |
| そ の 他（受講生への要望等） | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・上記の計画は、授業のガイドラインです。授業の進行状況により変更する場合があります。 ・授業で分からなかった点や質問がある場合は、メールでも受け付けます。但し、提出物は受け付けません。 ※課題提出について：当日欠席者も、必ず提出すること。 | | |
| 担当教員の連絡先等 | | | |
| 担当教員 E-mail | その他 | | |
| hayase@hcc.ac.jp | | | |

| | | | |
|--|--|--|--|
| 授 業 科 目 名 | | 認知症の理解 | |
| 担 当 者 名 | | 奥川 満子・田中 文佳 | |
| 科 目 コ ー ド | 2500018 | 授 業 形 態 | 講義 |
| 学 年 | 1 | 開 講 期 | 通年 |
| 単 位 数 | 4 | 履 修 方 法 | 介護福祉士必修 |
| 授業の概要と方法 | | 認知症の人が急増を続ける時代となり、在宅や高齢者施設などでも認知症の人が大勢暮らすようになってきている。そこで、認知症ケアの理念を理解するとともに、認知症に関する基礎的知識を習得しながら認知症の人とのかかわり・支援のあり方について学ぶことができる。授業は、講義やグループワーク、DVDを使用し、認知症に対する知識を深める。 | |
| 授業の到達目標 | | <ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症を取り巻く歴史的、社会的状況の取り組みの経過を踏まえ、認知症ケアの理念を理解できる 2. 医学的側面から見た認知症の基礎的知識について理解できる。 3. 認知症に伴うこころとからだの変化を具体的に学び、観察力を養うことができる。 4. 認知症の人に対する介護の基本を学び、介護実践力を培うことができる。 5. 医学的側面から見た認知症の基礎的知識について理解できる。 6. 認知症に伴うこころとからだの変化を具体的に学び、介護に役立てることができる。 7. 認知症の人に対する介護の基本を学び、介護実践力を培うことができる。 8. 認知症に関する制度や地域におけるサポート体制等について学び、理解することができる。 | |
| 授 業 計 画 | | | |
| 1. | 認知症を取り巻く状況 認知症ケアの歴史 | 16. | 認知症の原因となる主な病気の症状の特徴： アルツハイマー病、レビー小体病、脳血管性疾患 |
| 2. | 認知症ケアの理念と視点 認知症についてグループワーク | 17. | 若年性認知症 |
| 3. | 認知症高齢者の現状と今後の数の推移 | 18. | 病院で行われる検査、治療の実際 |
| 4. | 認知症に対する行政の方針と政策 | 19. | 認知症の人の特徴的心理・行動 |
| 5. | 認知症の人の体験の理解・・・グループワーク | 20. | 認知症の人へのかかわりの基本・・・ロールプレイング |
| 6. | 老化のしくみ 加齢に伴う身体機能の変化 | 21. | 認知症に伴う機能の変化と日常生活への影響 ・・・グループワーク |
| 7. | 認知症と生理的なもの忘れ | 22. | 地域におけるサポート体制 |
| 8. | 認知症の基礎知識(1) 認知症とは 認知症の症状（中核症状・周辺症状） | 23. | 地域におけるボランティアや認知症サポーターの役割・機能 |
| 9. | 認知症の基礎知識(2) 認知症の診断 | 24. | 家族の認知症の受容の過程での援助 |
| 10. | 認知症の基礎知識(3) 認知症の原因疾患 | 25. | 家族の介護力の評価とレスパイとケアの必要性 |
| 11. | 認知症の基礎知識(4) 認知症で行われる検査の実際 | 26. | 認知症の人の人権擁護(1) 成年後見制度 |
| 12. | 認知症の基礎知識(5) 認知症の治療 | 27. | 認知症の人の人権擁護(2) 認知症と高齢者虐待 |
| 13. | 認知症の基礎知識(6) 認知症の予防 | 28. | 居住地の介護認定申請方法の実際と介護保険サービス内容の調査 |
| 14. | 認知症の人の行動・心理症状 グループワーク | 29. | DVD 観賞 「認知症の人といっしょに生きる」 感想をレポートする |
| 15. | まとめ① | 30. | まとめ② |
| 成績評価の方法 【評価項目と割合】 | | | |
| 定期試験 | | レポート及び授業への取り組み姿勢 | |
| 80% | | 20% | |
| 授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等） | | | |
| ・グループワークへの課題は、事前にレポートで宿題とします。提出期限を守って下さい。 | | | |
| 使用テキスト | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | |
| 新・介護福祉士養成講座認知症の理解 12 [第3版] | 介護福祉士養成講座編集委員会 | 中央法規出版 | |
| BPSD 別 認知症ケア | (編)きのこグループ(監修) 佐々木健 (執筆) 西谷達也 | 日総研出版 | |
| クエスチョンバンク 介護福祉士国家試験問題解説 2018 | | メディックメディア | |
| 参考書又は参考資料等 | | | |
| ・参考書や参考資料、プリント等は適宜紹介・配布します。 | | | |
| そ の 他（受講生への要望等） | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・上記の計画は、授業のガイドラインです。授業の進行状況により変更する場合があります。 ・授業で分からなかった点や質問がある場合は、メールでも受け付けます。但し、提出物は受け付けません。 ※課題提出について：当日欠席者も、必ず提出すること。 | | | |
| 担当教員の連絡先等 | | | |
| 担当教員 E-mail | | その他 | |
| mokgawa@hcc.ac.jp（奥川） / t.fumi@hcc.ac.jp（田中） | | | |

| | | | |
|---|---|------------|---------|
| 授 業 科 目 名 | 障害の理解 | | |
| 担 当 者 名 | 早瀬 亮子 | | |
| 科 目 コ ー ド | 2500019 | 授 業 形 態 | 講義 |
| 学 年 | 1 | 開 講 期 | 前期 |
| 単 位 数 | 2 | 履 修 方 法 | 介護福祉士必修 |
| 授業の概要と方法 | 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境に配慮した介護の視点を習得する。 | | |
| 授業の到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害の概念や障害に関する法的・医学的知識（障害の種類・原因・特性）を理解する。 2. 各々の障害の特徴を捉え、介護上の留意点を列挙できる。 3. 障害が及ぼす心理的影響や障害の受容過程に配慮した生活支援を介護実践に繋げることができる。 4. 家族支援・関連職種とのチームアプローチのあり方、また地域におけるサポート体制について列挙できる。 | | |
| 授 業 計 画 | | | |
| 1. | 障害の概念 | | |
| 2. | 障害者福祉の基本理念 | | |
| 3. | 障害者を取り巻く状況・生活の理解 | | |
| 4. | 障害のある人の生活の理解（視覚障害） | | |
| 5. | 障害のある人の生活の理解（聴覚・言語・重複障害） | | |
| 6. | 障害のある人の生活の理解（肢体不自由①） | | |
| 7. | 障害のある人の生活の理解（肢体不自由②） | | |
| 8. | 障害のある人の生活の理解（内部障害①） | | |
| 9. | 障害のある人の生活の理解（内部障害②） | | |
| 10. | 障害のある人の生活の理解（発達・知的障害） | | |
| 11. | 障害のある人の生活の理解（精神障害） | | |
| 12. | 障害のある人の生活の理解（高次機能障害・難病） | | |
| 13. | 社会資源と居住環境 | | |
| 14. | 家族への支援 | | |
| 15. | 連携と協働（チームアプローチ・地域でのサポート体制） | | |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | | | |
| 定期試験 | レポート | 授業への取り組み姿勢 | |
| 80% | 10% | 10% | |
| 授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等） | | | |
| ・教科書をもとに事前及び事後の学習。 | | | |
| 使 用 テ キ ス ト | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | |
| 介護福祉士養成テキスト16 障害の理解 | 遠藤英俊 坂本洋一 藤野信行 | 建帛社 | |
| 参考書又は参考資料等 | | | |
| ・適宜資料配布する。 | | | |
| そ の 他（受講生への要望等） | | | |
| ・予習を必ず行い、授業に臨んで欲しい。他の教科と関連づけながら意識して学んでほしい。 (資料整理のためのファイルを用意) | | | |
| 担当教員の連絡先等 | | | |
| 担当教員 E-mail | その他 | | |
| hayase@hcc.ac.jp | | | |

| | | | |
|--|---|-------------------------|---------|
| 授 業 科 目 名 | こころとからだのしくみ I | | |
| 担 当 者 名 | 奥川 満子 | | |
| 科 目 コ ー ド | 2500020 | 授 業 形 態 | 講義 |
| 学 年 | 1 | 開 講 期 | 前期 |
| 単 位 数 | 2 | 履 修 方 法 | 介護福祉士必修 |
| 授業の概要と方法 | <p>介護実践に必要な知識という観点から、からだところのしくみについての知識を養い、根拠に基づいた介護技術を修得できることを目的とする。さらに、介護技術の根本となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解できるように学習をすすめる。</p> <p>授業は、講義を中心とし、演習やグループワークなどを通して、人を理解できるように取り組んでいきたい。</p> | | |
| 授業の到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の基本的な構造や機能及びその病態生理について理解できる。 2. 代表的な疾患についてその概要を理解することができる。 3. こころとからだのしくみを具体的に学び、介護実践に必要な意義を理解することができる。 4. みじたくに関連したこころとからだのしくみを学び、介護実践能力を培うことができる。 | | |
| 授 業 計 画 | | | |
| 1. | 健康とは何か | ：レポート 健康の定義と設立について | |
| 2. | 人間欲求の基本的理解 | ：基本的欲求・社会的欲求 | |
| 3. | 自己概念と尊厳について | ：自己実現といきがい | |
| 4. | 齢者の理解 「折り梅」観賞 | ：感想をレポート | |
| 5. | からだとしくみの基礎 | ：生命の維持・恒常のしくみ | |
| 6. | からだとしくみの基礎 | ：人体部位の名称、ボディメカニクス、関節可動域 | |
| 7. | からだのしくみの基礎 | ：人体模型を用いて理解 | |
| 8. | バイタルサイン | ：血圧、脈拍、体温、呼吸の測定方法 | |
| 9. | 身じたくに関連した基礎知識 | ：みじたく行為の生理的意味、爪や毛髪の構造 | |
| 10. | 身じたくに関連した基礎知識 | ：口腔のしくみ、口腔の清潔のしくみ | |
| 11. | 機能の低下・障害が及ぼす整容行動への影響 | | |
| 12. | 生活場面におけるこことからだの変化の気づきと医療職との連携 | | |
| 13. | 老年期運動器の疾患 | ：各自がレポートにまとめ、グループワーク | |
| 14. | 老年期の運動器の疾患 | ：グループワーク | |
| 15. | まとめ | | |
| 成績評価の方法 【評価項目と割合】 | | | |
| 定期試験 | レポート及び授業への取り組み姿勢 | | |
| 80% | 20% | | |
| 授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等） | | | |
| ・演習の場合は、事前に学習すること。グループワークの課題は、事前にレポートで宿題としています。提出期限を守って下さい。 | | | |
| 使用テキスト | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | |
| こころとからだのしくみ（第3版） | 介護福祉士養成講座編集委員会 | 中央法規出版 | |
| 参考書又は参考資料等 | | | |
| ・参考書や参考資料、プリント等は適宜紹介・配布する。 | | | |
| そ の 他（受講生への要望等） | | | |
| <p>・上記の計画は、授業のガイドラインです。授業の進行状況により変更する場合があります。</p> <p>・授業で分からなかった点や質問がある場合は、メールでも受け付けます。但し、提出物は受け付けません。</p> <p>※課題提出について：当日欠席者も、必ず提出すること。</p> | | | |
| 担当教員の連絡先等 | | | |
| 担当教員 E-mail | その他 | | |
| mokgawa@hcc.ac.jp | | | |

| | | | |
|--|--|---------|---------|
| 授 業 科 目 名 | こころとからだのしくみ II | | |
| 担 当 者 名 | 奥川 満子 | | |
| 科 目 コ ー ド | 2500021 | 授 業 形 態 | 講義 |
| 学 年 | 1 | 開 講 期 | 後期 |
| 単 位 数 | 2 | 履 修 方 法 | 介護福祉士必修 |
| 授業の概要と方法 | 人体のしくみやこころのしくみを理解した上で、根拠ある介護サービスを提供することの必要性を理解することができるようになる。さらに、身体機能のしくみ、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメントや介護・連携などの必要性を理解できる。 | | |
| 授業の到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 移動・食事・入浴・排泄・睡眠に関連したこころとからだのしくみを学び、根拠のある介護実践を行う必要性が理解できるようになる。 2. 死にゆく人のこころとからだのしくみについて理解することができる。 3. 医療職や他職種との連携の必要性について理解することができる。 | | |
| 授 業 計 画 | | | |
| 1. | 移動に関連したこころとからだの基礎知識：移動行為の生理的意味 | | |
| 2. | 移動に関連したこころとからだのしくみ：安全・安楽な移動、歩行のしくみ | | |
| 3. | 機能の低下・障害が及ぼす移動への影響：グループワーク | | |
| 4. | 食事に関連したこころとからだの基礎知識：からだをつくる栄養素 | | |
| 5. | 食べることの生理的意味、食べるしくみ | | |
| 6. | 食べることに関する機能の低下・障害の原因 | | |
| 7. | 排泄に関連したこころとからだの基礎知識：排泄の生理的意味 | | |
| 8. | 機能の低下・障害が及ぼす排泄への影響：グループワーク | | |
| 9. | 入浴、清潔保持に関連したこころとからだの基礎知識 | | |
| 10. | 睡眠に関連したこころとからだの基礎知識：睡眠の生理的意味 | | |
| 11. | 機能の低下・障害が及ぼす睡眠への影響：グループワーク | | |
| 12. | 生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携：グループワーク | | |
| 13. | 死にゆく人のこころとからだのしくみ：死に対する考え方 | | |
| 14. | 終末期に対する医療職との連携 | | |
| 15. | まとめ | | |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | | | |
| 定期試験 | レポート及び授業への取り組み姿勢 | | |
| 80% | 20% | | |
| 授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等) | | | |
| ・演習の場合は、事前に学習すること。グループワークの課題は、事前にレポートで宿題としています。提出期限を守って下さい。 | | | |
| 使 用 テ キ ス ト | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | |
| こころとからだのしくみ (第3版) | 介護福祉士養成講座編集委員会 | 中央法規出版 | |
| 参考書又は参考資料等 | | | |
| ・参考書や参考資料、プリント等は適宜紹介・配布する。 | | | |
| そ の 他 (受講生への要望等) | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・上記の計画は、授業のガイドラインです。授業の進行状況により変更する場合があります。 ・授業で分からなかった点や質問がある場合は、メールでも受け付けます。但し、提出物は受け付けません。 ※課題提出について：当日欠席者も、必ず提出すること。 | | | |
| 担当教員の連絡先等 | | | |
| 担当教員 E-mail | その他 | | |
| mokgawa@hcc.ac.jp | | | |

| | | | |
|---|--|-----------|-----------------------------|
| 授 業 科 目 名 | | 医療的ケア | |
| 担 当 者 名 | | 奥川 満子 | |
| 科 目 コ ー ド | 2500030 | 授 業 形 態 | 講義・演習 |
| 学 年 | 1 | 開 講 期 | 前期 |
| 単 位 数 | 2 | 履 修 方 法 | 介護福祉士必修 |
| 授業の概要と方法 | 介護福祉士が医療的ケアを学ぶことになった経緯を理解し、対象となる人の健康状態の把握、高齢者及び障害児・者への喀痰吸引・経管栄養に必要な概念を学ぶとともに知識や技術が修得できることを目的とする。 授業は、講義を中心とし、DVDによる喀痰吸引等の実施手順などを学び、シミュレーターを用いて演習する。 | | |
| 授業の到達目標 | 1. 医療的ケア実施の基礎として安全性、感染予防、健康状態把握のための知識を修得する。 2. 喀痰吸引の基礎的知識と実施手順を理解する。 3. 経管栄養の基礎的知識と実施手順を理解する。 4. 喀痰吸引、経管栄養などシミュレーターを用いて、手順通り実施できる。 | | |
| 授 業 計 画 | | | |
| 1. | 人間と社会： 個人の尊厳、医療の倫理、利用者や家族の気持ちの理解 | 16. | 消化器のしくみとはたらき |
| 2. | 保健医療チーム制度とチーム医療： 保健医療に関する制度、医行為に関する法律 | 17. | 消化・吸収とよくある消化器の症状 |
| 3. | 安全な療養生活：喀痰吸引や経管栄養の安全な実施 | 18. | 経管栄養とは |
| 4. | 救急蘇生 | 19. | 経管栄養実施上の留意点 |
| 5. | 清潔保持と感染予防： 療養環境の清潔・消毒法、職員の感染予防 | 20. | 子どもの経管栄養について |
| 6. | 滅菌と消毒の違い | 21. | 経管栄養に関する感染と予防 |
| 7. | 健康状態の把握、バイタルサインと急変状態について | 22. | 経管栄養受ける利用者や家族への対応、説明と同意について |
| 8. | 呼吸のしくみとはたらき、 いつもと違う呼吸状態について | 23. | 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認 |
| 9. | 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論： 呼吸のしくみと働き | 24. | 急変・事故発生時の対応と事前確認 |
| 10. | 吸引器具・機材のしくみ、清潔操作について | 25. | 経管栄養で用いる器具・機材及びそのしくみと清潔操作 |
| 11. | 喀痰吸引ケアの実実施手引き、報告および記録 | 26. | 経管栄養ケア実施の手引き |
| 12. | 口腔内や鼻腔内吸引および気管カニューレ内部の 喀痰吸引等の通常手順 | 27. | 胃瘻・腸瘻、または経鼻による経管栄養 |
| 13. | 人口呼吸器装着患者の生活支援上の留意点について | 28. | 喀痰吸引、経管栄養の実技演習 |
| 14. | 子どもの吸引について、利用者や家族への対応、 説明と同意について | 29. | 報告と記録の必要性について |
| 15. | 急変・事故発生時の対応と事前対策 | 30. | まとめ |
| 成績評価の方法 【評価項目と割合】 | | | |
| 定期試験 | 授業中に数回行う小テスト | 授業への取組み姿勢 | |
| 80% | 10% | 10% | |
| 授業外で行うべき学習（準備学習・事後学習等） | | | |
| ・喀痰吸引等については、シミュレーター用いた演習の場合は「一人で実施できる」まで指導を受けて事後学習をすること。 | | | |
| 使用テキスト | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | |
| 最新介護福祉全書第13巻「医療的ケア」（第2版） | 川井太加子 他 | メヂカルフレンド社 | |
| 参考書又は参考資料等 | | | |
| ・授業の中で参考図書や文献を紹介する。演習や実技の時は、積極的にテキストや資料を読んで参加すること。 | | | |
| そ の 他（受講生への要望等） | | | |
| ・演習や実技は、介護実習室で行います。介護実習室では、実習服で臨んで下さい。髪型もまとめて下さい。 ・この授業は、演習実技を中心に展開するので、欠席した場合は、必ず追加補習を受けて、技術を修得しましょう。 | | | |
| 担当教員の連絡先等 | | | |
| 担当教員 E-mail | | その他 | |
| mokgawa@hcc.ac.jp | | | |

| | | | |
|---|--|---------|----|
| 授 業 科 目 名 | バリアフリー論 | | |
| 担 当 者 名 | 奥村 千カ子 ・ 宮田 浩紀 | | |
| 科 目 コ ー ド | 2500022 | 授 業 形 態 | 講義 |
| 学 年 | 1 | 開 講 期 | 後期 |
| 単 位 数 | 2 | 履 修 方 法 | 選択 |
| 授業の概要と方法 | 超高齢社会を迎え、国の施策が施設依存型から、地域密着型へと変化をしている。高齢者・障がい者が住み慣れたわが家、住み慣れた地域での在宅生活を送る場合の障壁（バリアー）となる物を探り、身体状態を理解し、障壁（バリアー）を取り除く手法や、安心・安全な住まいの創り方の基本を知ることが目的とする。 | | |
| 授業の到達目標 | 1. バリアフリーの手法を理解し、高齢者・障がい者が在宅生活を維持できる方策を修得する。 2. 福祉住環境コーディネーター3級レベルの知識を目標とする。 | | |
| 授 業 計 画 | | | |
| 1. | ガイダンス、少子高齢社会と共生社会への道 | (奥村) | |
| 2. | バリアフリーとユニバーサルデザイン | (宮田) | |
| 3. | 福祉用具と住宅改修 | (宮田) | |
| 4. | 難病の方の在宅生活を支える | (宮田) | |
| 5. | 住まいの知識 1 建物構造 | (宮田) | |
| 6. | 住まいの知識 2 住宅設備機器 | (宮田) | |
| 7. | 生活行為別にみる安全・安心な生活：起居・移動 | (宮田) | |
| 8. | 生活行為別にみる安全・安心な生活：排泄・整容・更衣・入浴 | (奥村) | |
| 9. | 生活行為別にみる安全・安心な生活：清掃・洗濯・調理 | (奥村) | |
| 10. | 高齢者の健康と自立 | (奥村) | |
| 11. | 在宅生活の維持を支える介護保険制度 | (奥村) | |
| 12. | 障害の種類と自立の方策 | (奥村) | |
| 13. | 脳卒中片麻痺の方の在宅生活を支える | (奥村) | |
| 14. | 安心できる住生活とまちづくり | (奥村) | |
| 15. | まとめ | (奥村) | |
| 成績評価の方法 [評価項目と割合] | | | |
| 定期試験 | 小テスト | レポート | |
| 60% | 30% | 10% | |
| 授業外で行うべき学習 (準備学習・事後学習等) | | | |
| ・各回の講義の復習をしておくこと。 | | | |
| 使用テキスト | | | |
| 書籍名 | 著者 | 出版社 | |
| 福祉住環境コーディネーター検定試験 3級公式テキスト[改訂 4版] | | 東京商工会議所 | |
| 参考書又は参考資料等 | | | |
| ・適宜資料を配布します。 | | | |
| そ の 他 (受講生への要望等) | | | |
| 少なくとも、11月に行われる福祉住環境コーディネーター検定試験 3級に合格するよう学習すること。 | | | |
| 担当教員の連絡先等 | | | |
| 担当教員 E-mail | その他 | | |
| okumura@knwu.ac.jp (奥村) miyata@knwu.ac.jp (宮田) | | | |